

# 進路通信

篠山市立丹南中学校  
第3学年 進路通信 第2号  
平成28年 5月20日  
発行責任者 赤井敏博  
文 責 中森邦広

## 進路の決め方について

高等学校進学希望の生徒が多いと思います。しかし、進路先は高等学校に限りません。高等学校の他に高等専門学校や専修学校などもあります。また、中学校卒業後は就職することもできます。高等学校も定時制、多部制などもあり、普通科・総合学科・職業科など、幅広い選択肢があります。たくさんの選択肢の中から、自分に合った進路を見極めることはとても難しいです。

学校説明会・オープンスクールに積極的に参加して、自分の希望に合った進路先を考えて下さい。

「行きたい高校は決めている」が、「やりたいことは見つからない」生徒の場合、目的が定まっていないために、やる気が出なかったり、学力不振に陥ったりして、高校生活を失敗することがあります。家庭では「どこの高校に行くのか」を相談することは大切ですが、「何を目的に進学するのか」を相談する方が重要です。

## 学力検査（一般入試）の合否判定について

### \*選抜方法

学力検査は中学校学習指導要領で示されている各教科の目標に即し、内容の基本的事項について出題され、理解力・応用力・分析力などの基礎学力についての検査です。各教科100点満点で、総配点は500点となります。

### \*学力検査と調査書の関係（合否の判定資料）

高等学校の合否判定委員会は、調査書に記録された学習評定と学力検査成績とを同等に取り扱い、合否を判定します。つまり、次のような配分で判定されます。

#### ① 調査書の換算点

国語・数学・社会・理科・英語の5段階評定を**4倍**します。

$(5 + 5 + 5 + 5 + 5) \times 4 = 100$ 点 が満点です。

音楽・美術・保健体育・技術家庭の5段階評定を**7.5倍**します。

$(5 + 5 + 5 + 5) \times 7.5 = 150$ 点 が満点です。

つまり、学習評定が全て「5」の生徒は250点(100 + 150)を持って学力検査に臨むことになります。

#### ② 検査当日のテストの得点の換算点

国語・数学・社会・理科・英語の各得点を評定を**0.5倍**します。

$(100 + 100 + 100 + 100 + 100) \times 0.5 = 250$ 点 が満点です。

つまり、合否判定では当日のテストの得点は半分(250点満点)になります。

#### ③上の①と②の合計と調査書の諸記録を参考にして合否の判定をします。

(ア) 調査書の換算点(250) + 当日のテストの換算点(250) = 500点満点

(イ) 調査書の諸記録

音・美・保体・技家は受検科目にないので、成績が悪くてもかまわないと言いつつ生徒が出てくることもあります。上の記述で分かるように、音～技家は**7.5倍**します。例えば、音楽が4から3になれば、**-7.5点**。この点数を当日のテストでカバーするためには、**+15点**が必要です。テストの点数で、平常点より15点上回るとはかなり難しいです。どの教科も真剣に取り組むことが必要です。

### \*調査書の内容

調査書の様式は、生徒に配布している「進路のしおり」に掲載していますので、そちらをご覧ください。

### \*面接

普通科以外の多くの学科は面接が実施されます。また、学力検査当日、受検会場(高校)に集合した時から、言動や服装等、態度などの様子も見られています。

### \*その他

部活動(文化・スポーツ)、生徒会活動、ボランティア活動等での顕著な成績や実績を合否の判定に加味する高校もあります。また、総合学科の学力検査では、1教科に限り芸術教科(実技教科)で受検することができます。

### \*複数志願選抜

①公立の全日制普通科(単位制を含む)及び総合学科の高等学校で実施します。

・個性や能力に応じて高等学校を選択し、1校または2校を志願できます。

・志願者の第1志望を支援するために、第1志望校には一定の加算点を加えて合否判定を行います。

・総合学科のみを志望する場合に限り、学力検査のうちの1教科を音楽、美術、保健体育、技術・家庭の4教科のうち、希望する1教科の実技検査に替えることができます。

合否判定

・合否の判定方法：次の①、②によって判定します。

①各高等学校において、第1志望者は素点に一定の第1志望加算点を加えた点数で、第2志望者は素点の点数で、すべての受検生の点数を順に並べます。昨年度、第2学区の加算点は20点でした。

②点数が、各校の募集定員数内の順位であれば、総合判定を経てその高等学校へ合格となります。